

太子高校の挑戦 その 1 1

学年全員で「学び合い」授業に挑戦！レポート

本年度は、太子高校の「挑戦の年」と位置づけて「学力向上」「授業改善」に取り組んでいます。この通信で本校の取組みについてお話することで、太子高校の挑戦について知っていただければと考えています。

先日、学年全員で行う『学び合い』が行われました。アクティブ・ラーニングに全校的に取り組んでいる本校でも、これほど大人数を対象とした授業での実施は、初めての挑戦です。

実施日時 10月21日（水） 5, 6校時

実施学年 第1年次

実施教科 産業社会と人間（200字意見文）

教室を講義棟に移して、最初に担当教師から授業の狙いと目標が説明されました。全員、しっかりと前を向いて話を聞いています。今までアクティブ・ラーニングの授業をいろいろな教科で受けてきて、この手法を用いるときは最初の説明を理解しておくことが非常に大切だということが、生徒に分かってきたのだと感じました。各教科の先生方が、工夫を凝らしてアクティブ・ラーニングに取り組んでこられた成果が、聴く姿勢に現れています。

授業担当教師からは、「全員が時間内に200字意見文を書き上げる」という目標と、それを達成するためには、できた人がまだ書けていない人に自分から関わっていくこと、自分から「ヘルプ」を出すことも大切

であることなどが説明されました。2時間の授業で、240名の生徒全員が意見文を完成させるのは、簡単なようでじつは非常に難しいことです。なぜなら、人間は一人一人考えるのに必要な時間の長さも違っているし、持っている言葉の数も違います。さらに、感性が違うのです。「一緒に考える」ということは、こういう大きな違いを「一緒に乗り越える」ということです。

あちこちで『学び合い』が始まりました。

壮観でした。

書き上げた生徒が、次々にまだ考えている生徒に関わっていきます。

教える方も教えられる方も真剣です。でも、授業が終盤に近くなり、多くの生徒が完成させた状況では、時間をもてあまして雑談が目立つようになりました。一方では、真剣に悩み考えあぐねている生徒がいます。そして、あと一步の所まで来ながらも、未完成のまま終了の時間を迎えてしまった生徒もいました。

これが、今回の授業の実際です。



担当者が生徒に伝えたメッセージ



- 1 書き終われなかった人がいたのは、書けなかった人がダメなのではなく、考え悩んでいる人にきちんと関わりきれなかったからです。『学び合い』の授業は、全員で作上げる授業です。
- 2 社会では、期限内にチームで仕事を完成させることが求められます。今、その練習をしているのです。自分たちができたからおしまいというような所から、一步踏み出してください。
- 3 授業の終盤の状況は、あれで良かったでしょうか。自分が次に何をどうすればいいのか、皆さんはもう知っています。しっかり考えて実行できる人になってください。
- 4 この授業を通じて勉強のことで協力できる仲間をつくってください。将来、その仲間が君を助けてくれます。また、君がその仲間を助けます。

濃い「人間教育」の実践でした。

